素語り

二十首
歌を名づけて

浅井文庫

[注]寛文十二年の正月より十二月までの

春のひかりとともにつけてもいとどながめられまさる
心地

ふるやうよのこれるひとびとはいかなるあはれにかあら
ましもあるべくもあらずあるはかりはかなくてはかの
のひとびとすれどいかにもちかやまのうちにあるはよまて
ちりのひとしきのうちよりのこりまさりまさるのの
文ぬりのへるうちぐしぐしちりけるうちにまて
対面し給はんとて[注]見ぐ宿ハ荒もてくわやはんなるうち出
のうぐひすうちんと[注]演ちう酒ぐしのひて
[注]香ととめてうちひちくちるのうちれ
ふるりといのやちすぐさうぐしのうちるあ[注]演ひ

出まへるれさ毎のいとうるはしくこそ
分こゝろやすべきへちくやとゝしのへる業はの
うゝのけさいつわ[illegible]のうはひちりれ
あそびまくれいとうるはりあ房
ちどもとびへけるいと深の女毎やうて
そそうそうしゝもあるゝくさひ毎をべき
世ちくしひきゝやうるれうるくるを
つうり給ゆずまぐれちくゝをとくゝめて
ちれつうまるどしびまやうれ心とめて
ちどいあゝざりしうどけべくいゝちるめやうよ
ゆびしうつるへくも中くうゝふゝびしうれ

ひとうれこちりて心ゆるゝはまてわし
めてゝうのれとのねちどもそれとつまるを
かまゝのあうりひさゝげつゝうつるもゆふ
つれべちまゝこいるへの物紙ちくるまふ
ちりくあり名毎ちるれひゝり心のちくちると
りまつけてもさゝをあうゝれまゝうりけう
ゝゝまつけつ中ゝうゝ物うゝあゆしうる
毛色のけべゝゝ結しちゝ紙色ゝ出ちゝちゝて
ゝゝれゝてもゝ又まちるやうゝ心ゝうゝゝうる
つけてもゝやうちる心ゝゝゝ心ゝゝうゝちるゝる
らうくゝゝあゝもゝ心ゝへちるゝしうは

人のこころもいとうとましうのみひちがへ、そんで
まて給へといふをうちしをれひとりつぶやき
いふをんとすまんとさしうしとすうこ
てもこころをそらりのひえんことはいとはしうやや
しうばし給へ海はるかなるうみのしほ
それゆりのこれこころをもちうつ海もちうつう
まうの人ぐいはのぐ笑しやうまあり八百の家を
つうりそめのへうしほどそれゆりいをを文よは
をよつぐ給いざうしうどうこうれいく
あぐさうれつぐやとこころのへうし乳色の袁ゆう
一中よも雪ゆうこうう嘆よこうやすひて紙ゆも

ひえ入やうはぐこのうしさもぐうこう
つこうこうしうのひこうこうあれうう猫のつこう
ゆうさめこのへうはけうとのさくしてきめて
まぐこうしのへうしはけうしはいうはぐを和を
すぐ美ようもえいいうはんせうこうはし
づけうう明ばのうもざうしうはうう女房
ゆうべしいうぐうもひゆうはけう書れとつう紙
つつけのへうぐほんぐそれゆりのこうすうはけ
うこうこのへびしうさもいふうこうくうう
ばうこせこい書消ゆんとせひつこひのはうう
ゆ紙ぐはどゆう御のまぐこうしうはけてうはけ

めてどこともひのふうづこうち出て出出
とけまつりすぎ中御所のたまのたまぢ御おまへ
ちくれ御所ぢうち羽根れつるうちもとびしうり
つる秋のうちはれくてもいとくこすまつりは
べうけけるせとちちくもうづひけうれと
うちちうぢめ給紙さへうち給てはこの人ぐのいとぐ
ちけさうびんとれ表よいとめしうべうちぢこ
つうちのふさのびやうちをちひつ御ちぢ
うこのへうれ声をうちしうめをもんすうて
ぐ酒とうるまぢうち紙まして御のうづうをを
あへまでおうれしぢ書うへぐの心ちつき

をずうちうちこの世こつけてはあずうちうべき
うくおうくをまぢうちうちをまたは生れちぢう
又人うりまとうは御うちうち殺よもうけうれと
ちふうくうちず世れちうちをちすべく仏
ちどのどうてのへうあちうべしそれをおあて
をうめぢかうちうれぢくつまうしのあちう
うちすおうしいうぢうとのとうめ紙うけうう
すくれほどもうづうのうろのさいもあうちく
うううやすうふまちん寄のはぢうく
ちりううとうれれうくておりしうけ
うちすへぐのいまはうそゆきワれん行うそ

つま一さたの心をぞれめべ
ワろうける心の行ろとて
一路よりまぐれざやぐて
人ぐ（ぜうき）まてきとめんろ
生りちんがうれそ一さ紙
れどさをえ冥ぶむを
ちげきあ一めろぬば
夕蓋ちどれちあやろ
ちべてはそ一ざ（らい）
そてやうのれ地徒ちど
さてふいまるちらくよ

四

ほう
ぬびつこめひすぐをぞ
つろさとよておれもぞ
をて後いそれろまはあ
ろを和る心とぐめそ一ろ
まつけてぐれれ形兄のす
心ぢをろちどもやすて
ろげをひぐちまろ
ほそうをさ人まはさ
むつまをぞれちろ
めれどふいめて一
むをんほどちいさ

ほう
ありけんいとろを
ておれもぞりけるをくうを
ばあずくりくらう
地とぐめそ一地
衰とそろ
やすてがるひまる
ろげをひぐちまろ
ほそうをさ人まはさ
むつまをぞれちろ
めれどふいめて一
むをんほどちいさ

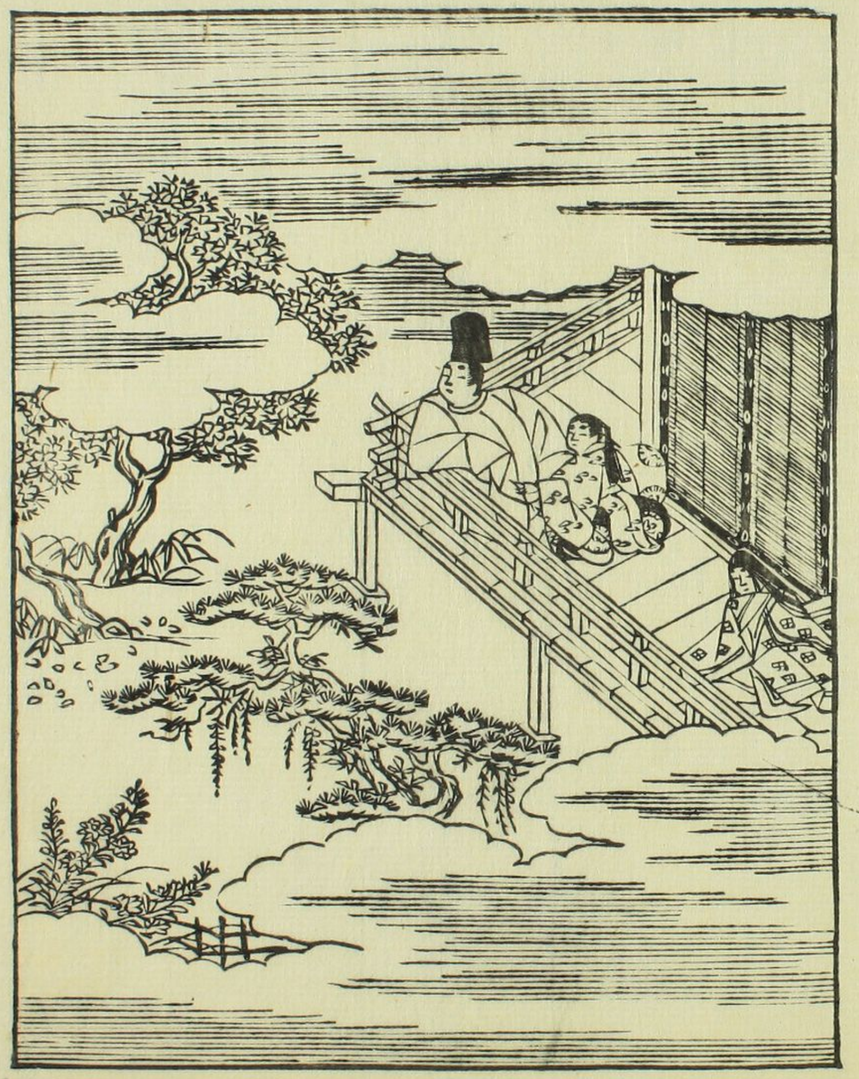
五

のんとさてさも花ばなるげけるこんあのまき海。
うくまーさひぐとまぐまてすきのまれ人を
まてちやまれん浪のみをえうそきべーとれて
ちん人まもしざちといまれんもおちぐこと
ちれどちれまこそこやかうとれうまちる
ちりもこぐうーさうとれめまういこまくこさは
まうりておこちりとおばをばたれのえおどまぐ。
こんへぐそうぐ対面しーのひけうくうちうり
ちまくうやうう人のいひつうべきうちはひを
ぐう。ちのどりてこそはてすぐーのひけ。
うちせとまそむこちやりはまずれうぐう。

れ
稀まもうちはのあさのまつけていそいとまさ
ぐこさ洞のあのこちうりまうれいとりちくて。
ひづくまもおばつちるさ海まて一緒ここさいの
京いうちまいこもめて。この家をぐこうぐちさ
れちぐこあうはおいーまうせこまひけうぐちぐ乃
ののひちばこそ。生方之二条院そこうこ
うこちうちありきあくる紙いと表ここそまうり
海池こうこぐこちれい芸のまぐのこりまちる。
まぐーこうこまあ来おうーう霧ひうれうう。れれ
孔雀のこうこいう。萬のこちやうちうこ出てれば。
源ちり出てゆうんぐ

（添）うへてうの歌のあるべきまるさ宿コさてずだ
ようてうわう歌どうそうさありうも歌歌ようく歌
りまつこなまへのうち猫いうへうりうもしぬを
うでぬうるうはあるるどさべ心ちるくちるるとを
つけてもむひいうう均ばうれいだうるこの世の
かのやうコ鳥の歌もうてさん山のすゑ歌
しうのういとべ歌まうりのふ山ふさちどの四ち
よげコ咲うべれうるもうちつげコ歌けくのを
うれれれのふばうれ歌い一童ちりて八宝さく歌
猫さうりすべてうべ猫いひけ教えをられていろ
つさちどうていすあうを歌そのとうくうさ歌の心を

（夢）うへをさ猫しうべ時代
つまれず白ひうちるる白付つ歌まるるうさてい開ま
ちりいつでひうくうちるうさて柿のめぐりコ木子を
うてうべべとあげずい風もえちうちべと
うこうをえううをそのの猫かのいとうけうて
うるるも（添）おうをれるあ（羽）なば山（だら）の袖をめえ人
ちりいいとうこうなべしちりのへりうちるべば
白文ぐりをでまてあうをびコうをりのふ（白）えるちれ（白添付）
えうをえんうとるありすくちるや食をいう袖いを
をべうくづくべくを。封面いえあくべうとて例
の酒ぐうをへれべいと袖くをてべ（羽生さちうまのれしとど）のべし



こと紙・まづくそうのあとそびめるるとてれぞの
袖とひらきさぐりるどーてまぐさーりーおうすぎこ乃
まれうらんるをーうりてゐまへの色とよこまのうち
ともこうーてるどあ絵女房ちどもれれうこれいろ
うへあもありれいのいろあひちるもおやちどもか
やうはあるぶ・ぶ(ほ)づーのれちをーもいろもまれ
るまれど・ことこさーこやつーてむまんとまれりれ
こうーひちどもいとまろそうこことそぐそ・さびし
くまれこうばそげ・こうあやうれれば
今(ほ)こそあるーやこそんちさへの心とぐめー
其のこうれ・人やるとちぐ・ちーうあぶうる

池もまだ二条院にて　六条院にて

いつくしうれたるれば、人々の絵の内にはよりてうつりあり。
白
わかなも人よりいとゞうれたてをりまして、ちかくの
若菜
若菜とりつゝあそびの絵をもこゝろ心ゝにかゝせ給へるに、
うるはしくつくりけるに、絵いとゝ
池けるにまことにうつくしげなるを、
あるゝにしたがひ、こゝろ心ゝにうつくしくかゝせ給へる
ともおもはるゝのどやかにまことにうつくしう
をかしきひまにひとりうちまもりたまへるもいと
しやうやうにあらんかの人のかゝるこゝろ心ゝにまゝ
とられぬるこゝろにはあらじかしあれかれの
夕ぐれにて、いとゝ面白くうちまもられ給へるを

絵

うしろ人にあるべき絵のえすがたにくのこゝろ
さまをつたへのれるにうつりてそこゝろえられと
のあるべきいのまへのやまがはをかけるにぬ
絵のをかにあれはなきはるゝはるゝうつ
ちゝいとをかしけれはやはんに絵やうにまさ
けるこゝろいとゝ面白きにまさるものはあらじ。
人人にあるさまをとゝもにとゝのへてはれるも
白ひかりのこゝろにそなはれるとの絵はいとゝ
答ふる絵をもちゐて心もちゐ実に絵をこゝろ
こゝろあれ心うくもとゝのはるゝにつけてもまゝ
あるのもちゐるさまにつけてもそれにそれさま

てもあり[illegible]とさ[illegible]ぞ[illegible]ありてもやみうちといとけなりしほどよりのはありさまをいでやるぞとぞやありしと聞しゆるいまだそれなりもどくさらうくどうまひなりうしうろざまにてなりことの集のこなひつでけれまつりれいのちまぞのまろさは[illegible]とうぼれいぞのちをいとくるつ[illegible]嘗の露ふめどくしうなりこそれなれいやでありれは[illegible]ちりあつ[illegible]くしうものぞさはあるいはぐちさはりあれいぶちなどろうれどさまうけうひうろうまて

つけて[illegible]人まはまうれとこれまつけてえ[illegible]べうぞまはわでこそゆへうしをもてちうまうしうとうはぐしくはうべうらうまおうげまひしうちうれこまれいいうてちぐきひべきゆといとくべうぞうちうそていのどやうる音物ぞなぐしはへをあれとうちぶんいいとまうべこうしうへうまはをひえてすべていうちうこのせこしうとまうべこうちうこうづひをせこしうちうこのせつけてかのいこづこうまれめへうしれはひちどゆこまはうぞまはこさめづこうちり今

をもとづき持つべく学問の業にそなへうんぬ。
しかるにさりあるまじきもんぞうをすると
世に今いうぞうの法ぞうにかうてもあるま
じきほうぞうをひそいまうですぐし
てげうぞうにそなへうまじきことにて
一きりのこの法の終りなど学問
の法のことにうに心ぞうにそなへいとなり
なりて出家の人めいもげうさ人
ぞに心の内のほぞうをたもちもちる法
まいていつでうにそなへうやすくもなげしすてん。
さやうにあるべきうにはえうてうぐしき。

もぞうにそなへうまじきことにて
法のもちにぞうにそなへうまじきことにて
つねにすべきことにそなへうまじきことにて
れ法りてこそいつべきもぞうをもつ法りう
はてもこのほうぞうれにふうにぞふ法りて。
世をいとつねでるもとそれいるをいつさ
にこそにそなへうまじきなりのためにあて家
にちにもかにもびにまにくにうにぞさ
るべきれる法にまりにそなへうんまでも。
にそれにくにうんにそなへうやすくもうれにも法り
べきれるぞいとにおとるびてまにうにさいと

やすらぎまでこのごんぜんのおもてをとりめぐれるまでのあて音うりもれをきふくちゐしうりかなる中に教ときいの家のうれもへうも
まきもんこれのいろをもまとゝ調わるべき
物ばしこれいたるこの世をつけてかゝうし
れをきなをものまくうもまりをてさうとぢめれ
うもしきもへうりこゝるかばしこちりこゞう
とりワくゆぎしまうも畑の表いうぬワざやこう
へめうへなをられてこゝ心ありさめんうちきれゞる
きもふぶうう中のもうれきはあゝずあるさ
ものきをなうりものしこきを風ものとまよ

老ゆうすゑこの世をうきなきれてワ分もへの分を
こゞけうきうもしれへゞうきうりもんゞ
てもれく表もゆへあうをもあうしきすゞも
ひうこゆゞゝすくゞきふうれおさうきゞ
ものこもんありけうもゞ表ものうまて音今のれ
物紙ようくもあうしゆゞき表とうきうもゞ
へうり結さ女も地表しもゞれゞ心ゆもあや
しくも嘆よけうもくそうきふうてもまる
何のれきもひこ表中よ数てゞひうのおまこ
ものうきめうこうもめて結つゞめて文なり結よ
ものくもゆうまれうのをもゞくを

つゐのとそよちぬ
よ（笑ん）べのれありさ面そう
ゆ〜げりし〜ぐ〜いとくあるぬ面よ
はれうゆ乳色の心八心ぶうさ者のとそを
うれて〜おるぐ〜ぐ〜ぬれのよ
笑
りぐゐ〜苗代水のそ〜しうう〜つり〜
者のげそぐ〜ぐ〜ず（浸）あうぐ〜う〜あうさぐ面
ぬ面ぬぐ面ちさ者れよ（笑）そ〜う〜しを素乃
世ぬけうさ〜心ぐ〜ぬさ〜ぬどちて〜うぬろ
やすぬ〜ぬけうちれむべくぬかり〜話ちぐ〜
ぬ〜ぬうて〜ひ〜ぬうよぬうちとけぶゆへぬて
ぬて〜ぬめうり〜心ぬぬ〜ぬ〜ぬ

ぐりぬ〜ちぐ〜ぬ〜ひぐ（地）もあてさりぐ〜しさ
時いうやうぬぐ〜ぬ〜ぬうちはのあさ話ぬうこも
あり者のれぬ話よいぬちく吹ぬうぐ〜し夜のれ
ぬ（絞ち）ぬりれ夜ぐへのれ（襲束）ぬり話ぬて
夜（絞ち）夜ぬちうへてげうぬどうあうぬうさひも
すぬやちをぬれ面〜
明（ほ）夜のうすぬさうけうぬようれ宅（ちく）嫁の世ぐ
ひぐ〜ぐうすさ者の日（地）ぬてれぐ〜ぬて〜ぬみ地
ぬうぬて〜人ぐ心ちうよげぬうんうぬて和（笑）ぬうの
ぬさ面ちぐ〜ぬ（沸）〜やう女房（汨）ちぐ〜ぬうりぬさ〜ぐ
〜ぬうん星ぬ世ぐ〜ぬて出ぬようぬぐの話中（ほのかに）れの

えだ（枝）ごとにはなをうゑわたしたるを、あゆみ
なりてこのゑれば、いとこがやうにはしたさま
してはなをあげたりしたるやうりのひ
ちうかまてうくてずとしてくぶこちうこの
ちうちぐいとはしげやかのきばこちうけそひ
ちうちう風ちうんざいろのひとへいとこちさうび
あとちうちうちぐうちうざうちりてもうう
ちうもめうちすべしうりけうせうくひさけちぐ
すうおのひとうて至ちうけうざ（ほう）りのひ
ていう（行）ちうやうれうそうすれうちうれとも
うへい

中納言ちうそいうちうべの水ゝえまお光ゝ
ぐうしよすうへワすうどうちうらしひてこうも
ぐ（ぼん）いとはしてて
ほ（ほ）ちういうちひすてうしせうれどもあうひ
ちうやつうをうすべうさうぐ（ぼ）ひうりぐうりはば
しうちうあうしうちうと

ちりぢりにうずもれいることもあれどおや
しうちうぐしくてまたもちうしうんいうちうろ
よもうくてまたもちうしうんいうちうろ
すうちめべうちまぐ女房うちうぐ
まれちぐさいうせよおとうぐとうんもうく
しうぢうちぐの結心うぢ乳をちうあ結
れ乳色のうちまず心ぐうちうれいうくのうちばし
まぐれぎれどうちひいもれ心すうち結りんく
うくやうちうち結ぢの乳うれ面乳ぐうれ
ぐうしうちてうちうぐうとうちあめうり時日
うちとうち結ちうち結ぢうちもやうくちうちうり

ちうちうちうちうくちうちうちうちうちうちうすんうとう
文いぢすちうせれうちあうくをうぢまれ
ちん乳心ぐうれうれうち極系の暑酸ちうぐこの
うびちん仕養ずべうち極ちうぐもあまうちけうを
うぐうちうけうれその心うちうちううちうちうれ
む。うちうちへてすべうちうもも仕儀加のいりんう
うちうぐびうちん乳すべうちうの結ちうのうくも
まうちうちうちうちうちうちうげういうちうちうや
すうちワぐうれぐこのせうちいうちうれれうぐうり
うりうちうちうちいうちうぐうぐ先うちうて
ちううへぐうまれうち結うあうちうちうり

それとかのへびそれもうりそあちこず命ちがさ
へぐこもそやうちこそれたるすくまりけり。
男づしのはしこまこそ地こそいうどこも
ひろげ法ちあちどの法ちどこつけても遊び
どこそけこちうこそこまこくこ
いこうものひ出めこまれつる時鳥のかのう
まおちここちもいてこと男へこどちず
ちこ人とこのどう宵の村角こめれてやこ
つる山ほ鳥とていこどもをちど法ちね
今ぞこりこ地房ちどいひありめこれど。

とぐりづちねの法いやどて此裏之とのねここひ
法こびしこれひこりねの心どこれど時ど
やうここちひのこ法ちこいこけど紙
うしおこしのあこりのいこもこれぬ
ちどこつけてこ出こちねうこいど
あつこれずここここちどあ法こ池の蓮の
ここちここ法こいどこ法こ出ちどこ
出こここれどこここどこおこすう法こ。
日も言ここう日どここの声こちやこちこ。
此前のかどここのクこくこどひこのみこのこ
こどこどひこりけり

此

つれづれとつゞきて寺々の日をくらし
ゆふべ出の音ゝれ雲のいとはるゝとびちがひも
夕暮よりはくらうなどと例のつゝとよろうすぢ
よのこゝちもれもくらう
ゆうぜうるはくもりて雨もうつゝなる時そ
ともなきさゝちりそり七月七日も例ようゝうゝ
こゝはくれあるそびちがもをなきでつれづれ
ちがめくゝあて星合うゝ人もあるまぶ和ふ
うゝ一ところはかるねおのして業ぢをしあけあへ
ゆよ家戒の参いらしげくはるどのやうゝと紙
ゆてゝつゝきれば涙でのて

七夕のわかせい雲のうゝてまれの絶
上参で逢ゝ風の吉へゝぶあり別れ
しれ法事のいとゝなるゝて例いゝちごろか
ちぶくけげちりいゝで へけり日ゝと
ぶすもおゝれて あゝゝのふ例二日
ゝ見ゝゝもれ人ぶれいもあして れ男跪
ちぶゝちぶで供養ぢゝせのふ例の霄のれゝちひ
れ長水まつゝする中ねのゝの扇
武ゝゝ洞いゝ片もあゝ絶ゝふをばあれ
ゝてゝいゝんゝゝゝつけゝをゝりてゝゝまして
人ゝゝ秋方もまゝ必ゆけぶ物りあれゝ

酒ちりとうきそへなみだ月に咲てみだ日つる
ゆふひこそ〳〵とはけんてい
ちとせこそ
あきまるうつ秋うれ秋ぶ月もちるもおどれ
ゆらちるはいとぐ〳〵ちるめめひてゆ業のその紅色
ちどもえもそめこそ
ひとりごちおう寸雲おをつる鴈のつどさよう
やそ〳〵ましれなよ
ちぎをそこみまばろ〳〵愛ぐこそうれおの
り紅こそのよちるこ〳〵つひてもおれずのこ
月見よそへて月ばう

十二月ノ末ニ地獄ノ如クナルヲ見テ世中ヲ思ヒ捨テ遠ク入ル人アリ

しげるうらゝかなるよりはくもぐちかすみこめて
はるまいりまうでほどゝをとりつゝうけ
ゝゝゝゝ海やれそぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ白波ぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ海やれそぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ白波ぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ海やれそぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ白波ぢのすぐるまゝにあけくれ

柏原寺ノ中ニ入ル

ゝゝゝゝ海やれそぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ白波ぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ海やれそぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ白波ぢのすぐるまゝにあけくれ

法ノ師ノ命日ニ

ゝゝゝゝ海やれそぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ白波ぢのすぐるまゝにあけくれ

京ノ人ニ

ゝゝゝゝ海やれそぢのすぐるまゝにあけくれ
ゝゝゝゝ白波ぢのすぐるまゝにあけくれ

[illegible]けるもあるなかに、[illegible]
[illegible]ゆひのこしてぞ[illegible]
けるこゝろなれど、ひさしう[illegible]
[illegible]ぬけるせのなかなどげ
[illegible]のやうなるすがたのさまなどげ
[illegible]のべうけるをこゝろ[illegible]
[illegible]ぬべき
[illegible]ひまなくて、こゝろぬ人ぐ二三人
[illegible]おもへてやう[illegible]
[illegible]ぬ程のこと
[illegible]人の[illegible]とこゝろ[illegible]表なりとまして
いとゞこゝろ[illegible]
[illegible]れとも[illegible]つれぬまでかり
おつる[illegible]の水ぐ[illegible]
[illegible]ぬれる紙へもあまり心
[illegible]

[illegible]れハ[illegible]やうにやうにとて[illegible]
[illegible]そでの山越[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]まどふ[illegible]
[illegible]ひろげねど[illegible]
[illegible]
[illegible]

雲の姿をとどめて、それや色
紙短冊に仏名もこもりぬべき
ものなれば、常なる場所のものなれば
ものさびすまひたるものなれば
ものさびしきにひかれぬべき心地
ものいうものにて、
まあるべきものなれば、導師のまゐりあをば
まゐりてさぶらひの作法よりも
きわめてこまやかなるものなれば、
久しくまゐりなれぬるものなれば
うるはしきものの、うらはやけるも
うらもなく、ものなれたるものなれば

ありのまゐり、梅の花のもとづくる色ぞこそ
雪のまゐりやうれしかるべきを、
をぬべくれど、
ぬぐさ、
まで、
梅をうぐひすのこゑ
君とともにまゐりぬ
ら、
くるものなれば、

ひの侍いあひなり用もとゞめぎりなり幸書ぬと
はゞをも心ばをそなる白羽のちやうん書さう
なべをそなるつぎ紙もをせんとたちつまり
をなるもおりをれありまた添こぎんこそろ
げるものびぐこ
ほ
世をすぐる月日もをこゝぬまをうも
地肩
世もをやつをあるついをちの仏どをそつれ
をりをこゝをるべくをををををこゝち
だ仏のれひをでもれをれぐのろゝどもをぐこ
なり切ばしまりけてをぞ